

①ノートマニュアルの作成（ノート指導についての共通理解）

表現力育成部会が中心となり、基本となるノートマニュアルを作成し全校で共通理解した。そして、4月第1回目の算数の授業をノート指導の時間とし、全クラス（2年生以上）で一斉に「宝物になるノートをつくろう」と呼びかけ、学びの足跡を残すノート指導に取り組んできた。

基本的ノートマニュアル（中・高学年）《教師用》

- 月/日 ㊦ 本時の課題（めあて）  
 ㊧ 問題  
 ㊨ 自力の考え  
 （図・式・言葉などを使って自分なりの方法で書く。）  
 ㊩ みんなの考え  
 ㊪ 友だちの考え  
 ㊫ まとめ  
 ㊬ 算数日記

教師は、毎時間の児童のノートを見てコメントを入れる。これにより、児童一人一人の思考過程や理解度を確認することができると同時に、教師側にとっても自分の指導を振り返る評価材料となる。

「宝物になるノートをつくろう！」

～自分の成長の足あととなる世界にひとつだけのノート～

1 書きなさいと言われたものは、しっかり書こう。

・単元名、日付、めあて（本時の課題）

㊦：今日のめあて

㊧：問題

※カラーペンを上手に使う（2～3色）。多すぎるのは逆効果。

2 自分で大切だと感じたことをメモしよう。

※吹き出しを使ったメモは、なかなか便利。

3 自分の考えた道筋を残そう。：㊨

・めあてに対する自分の考えを記録する。

・友だちに分かるように表す。

※たとえば、式・図・言葉の3点セットで！（+計算も）

4 友だちのよい考えをメモしよう。：㊩、㊪

・㊩、㊪や（〇〇さんの考え）と書いて！

・〇〇さんの考えから分かったところを書く。

・自分にはないところを書く。

・すばらしいと感じたところを書く。

・自分の考えにつけ足すところを書く。

5 分かったことや感想を自分の言葉でまとめよう。

（算数日記）

㊫：今日のめあてについての自分なりのまとめを書く

㊬：今日の勉強のふり返りや感想を書く。

（※先生からのコメント）

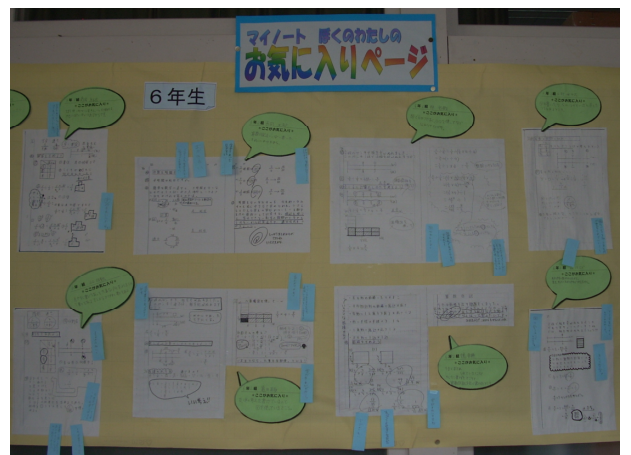
②ノート展示

○教師が選ぶ「おすすめのページ」

児童の良いノート（説明書きが上手なノート）をコピーして「おすすめのページ」として各学年の掲示板に展示した。どんなところが良いのかの観点を示すことで、友だちのノートを参考に充実したノート作りに励む児童が増えた。

○児童が選ぶ「お気に入りのページ」

全校児童が自分のノートから友だちに見せたいページを紹介する「ぼく・わたしのお気に入りのページ」の展示も同時に行った。各自、自分のノートのどんなところが気に入っているのかをカードに書いて展示し、高学年では友だちのノートを見た感想を付箋に書いて貼付するようになった。



## ■ノート指導の実際

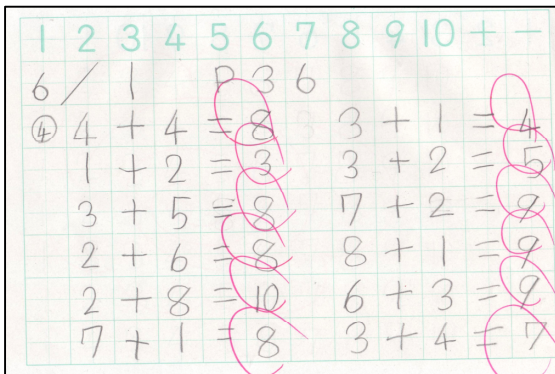
### 【例：1年生のノート指導】

ひらがなや数字の書き方を覚えたばかりの1年生に、書くことへの抵抗を少なくするために、簡単な事柄を場所を決めて写すことからノート指導を始めた。1学期は、6マスのノートを使っていたが、授業のまとめを板書したり算数日記を書いたりする活動を入れるとノートのマス目が足りなくなってきた。そこで、2学期からは、14マスのノートに変えた。基本的なノートのとり方として、以下の点に留意しながら指導していった。

- ・下敷きを敷く。
- ・1行目と2行目の間に罫線を引く。
- ・日付、ページ数、単元名、問題番号を書く。
- ・㊤…場面を表す図 ㊤…式 ㊤…答えを書く。 ㊤…1時間の授業のまとめを書く。
- ㊤…1時間の授業を振り返り、算数日記として分かったことを中心に書く。

また、答えに下線を引くときには定規を使ったり、丁寧な字で書くことも呼びかけたりした。そして、算数日記には必ず赤ペンを入れよく理解できたことを認めてあげたり、気づいて欲しいことなどを書き足したりしていった。このような指導をすることで、1年生から、ノートのとり方の素地を作りたいと考えた。ノートをとる回数を重ねる度に、少しずつではあるが書くスピードもつき丁寧に書けるようになってきた。

<1学期のノート>



<2学期からのノート>

